

留学日記

18時40分に桃園空港に到着しました。中原大学の皆さんと合流し、すぐに「寮へ。学生証を発行し、そこから徒歩で晩御飯を食べに行きました。道路は飲食店がズラリと並び、幅員が狭い片側1車線道路で、原付が縦横無尽に走り回っていました。後から不破先生から台湾は「車両ファースト」だと聞き、納得しました。見渡す限りのバイクと路上駐車車両。訪れてからのもの一時間で驚きの連続でした。

晩御飯は曹先生とチューターの皆さんに連れられ、火鍋を食べに行きました。見慣れない食材も多く、チューターの方になんの食材か伺いながら恐る恐る口に運んでいました。量が多く、一瞬アメフト部時代の食トレが頭をよぎりました。台湾へ来てから4日目ですが、今でも食事をするたびにそう感じます。同研究室の鈴木が食べきれなかったお肉は何枚か食べてあげました。

店を出てからは寝具を買いにスーパーへ。

寮の寝具と呼べるものは二段ベッドしかなかったため、一式(枕、マットレス、軽めの毛布)を購入しました。一式で大体1000元(日本円で3700円程度)でした。

学生寮のルームメイトは馬健元さん。私たちの暮らす10階は留学生の暮らすフロアらしく、多くの留学生が挨拶に来てくれました。

2日目は朝7時半に集合し、身支度を整え、大学近くのお店へ朝食を食べに行きました。奶barというお店です。奶(日本語読みは「だい」という漢字は中国語でミルクの意味らしいです。メニューはほとんどトーストやサンドイッチ。不破先生曰く、台湾の朝食は外で食べるのが主流らしく、朝食はトーストやサンドイッチがほとんどだそうです。異国ということ再認識しました。

朝食後、曹先生と不破先生と合流し、中原大の建築学科を見学しに行きました。建築学科の建物は洗い出しモルタルで外壁が構成されていました。辰野式です。一部外壁がアーチ状になっており、意匠的に凝ったものになっていました。各学年の作業ルームも見学させていただきました。昼食はお弁当とタピオカドリンクでした。さすが本場。

その後、学校の隣にある廃墟へ見学に行きました。

この廃墟は手付かずでそのまま放置されており、ここを利用して建築学科が展

示会をすることがあるそうです。

夕飯は結婚式場を兼ねているレストランで食べました。2日目も夕食は美味しく、台湾にいて食に困ることってこの先あるのか？という疑問を持ち始めるほどでした。店を出た後、夜市があるという通りへ行きました。

中原大学周辺の道路もバイクなり車なり人なりで賑やかだなあなんて思っていたのですが、比じゃありませんでした。見渡す限りの露店、溢れんばかりの人たち。日本では現在露店に対する規制があるためこのような景色は見られず、もうみんな興奮しっぱなしでした。

3日目はタクシーで大溪へ向かいました。昨年、交換留学生として工大に来ていた張さんがはるばる台南から来てくださいました。

まず初めに『大溪老茶廠』へ。ここは山の中にある歴史の深いお茶の製造工場ということでした。山の中というのも、元々は大規模な茶畑であったものを環境保全のために植林を行ったためにこのような姿になったそうです。



次に、大溪の市街地に行きました。ここは、日本人の観光客が訪れることがあまり無く台湾人には人気、というスポットらしいです。歴史的なファサードが多く残っており、町の中もそれを維持しようとする働きが随所に見られました。

大溪を下り、農村部へ。三合院という中国で見られる住居形態を見に行きました。

大学へ戻り、チューターや張さん達とお別れ。張さんは仕事があるため新幹線を利用して台南へ帰るそうです。本当にありがとうございました。

4日目は高速バスに乗り、台北へ。中原大学のある中壢市に比べ、とても発展していました。現在進行形で再開発中であり、雰囲気としては東京の丸の内や神田に似ています。再開発中の駅前から少し離れ、保存された歴史的な地区を中心にまち歩きを行いました。その地区を守るために大変な背景があったこと、今もなお多くの規制があることを知りました。ただ、街中の看板は規制が緩く、その証拠に多くの看板がせりだし、ひしめき合っています



た。

台湾へ来て 5 日目、だんだんこちらでの生活に慣れてきましたが、毎日驚きの連続です。今までの自分の常識が、必ずしも世界の常識ではないということを深く思い知らされることになりました。この留学でとにかくいろんなものを吸収して、大学生活の集大成である卒業制作に活かします！

次回は竹内研究室、鈴木です。